

## 特別支援学級 生活単元学習指導案

### 1 単元名 「野の花フェスティバルをしようー野の花フェスティバルの看板作り」

### 2 単元の目標

- ・野の花フェスティバルの準備を通して、みんなで協力し、一つのことに取り組もうとする態度を育てる。

### 3 単元設定の理由

#### (1) 単元について

これまで、生活単元では、季節の特色を生かして、探検したり遊んだりと様々な体験活動を中心に置くことにより、児童に季節感を体得させるねらいで学習してきた。

9月から11月の秋には、これまで育ててきた作物の収穫作業、収穫したさつまいもやとうもろこしをいただく収穫祭、収穫したポップコーンが食品となるまでの作業、秋見つけをしおもちゃを作る活動、虫の観察とお世話など、生活の中の身近なところから秋を楽しむ活動を十分取り入れながら、秋に十分に親しむことができる。

本単元では、自分たちで収穫したり楽しんだりした秋の喜びを、みんなと共有できるようなゴールを目指すものとして計画していきたい。

#### (2) 児童の実態

本学級は、知的障がい学級であり、1年男子1名、2年女子1名が在籍している。本単元に関わる実態は以下の通りである。

児童	1年男子	2年女子
学習面	<ul style="list-style-type: none"><li>・ひらがなの読み、書きに関して定着しづらいが、文字カードのマッチングを通して興味あるものに関する字は読んだり書いたりことができるようになってきた。</li><li>・10までの数の数唱、1対1対応、形の弁別ができる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ひらがなの読み書きは大体できる。</li><li>・漢字は、1年生の自然、天候、動作に関わる文字を習得中であり、生活と結びつけて活用させている。</li><li>・100までの数唱、20までの1対1対応、1桁のたし算やひき算、形や色の弁別、時計(ちょうどの時刻)の読み方ができる。</li></ul>

生活・学習の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座って学習できる時間が長くなってきた。</li> <li>・耳からの情報は入りやすい。</li> <li>・自分の言いたいことと反対のことを言い続けるので、意図をくみ取ってあげる支援が必要である。</li> <li>・ほめても素直に受け入れない。</li> <li>・誰かと一緒に何かをするという仲間意識が低く、何事も独占しようとする。教師と1対1の活動を好む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・狭い空間に認識していない人が入ってくるとパニックになり、学習の継続が困難になるが、ルールを守ろうとする意識は芽生えている。</li> <li>・協力学級のみんなど仲良く活動している。給食、掃除、体育と音楽の教科学習にしっかり参加できている。</li> <li>・会話の中でコミュニケーションがうまくとれずに気持ちが乱れることがある。</li> <li>・がまんができず、我を押し通そうとしパニックになる。</li> </ul>
生活単元に関する実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動のめあてを守ろうとする場面が増えてきた。</li> <li>・独占欲が強く、自分中心のことが多いため、素直になれず、学習を継続できないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手順を踏んでやれば、自分の身辺整理をすることができる。</li> <li>・慣れている人には、コミュニケーションをとることができる。</li> <li>・我慢ができない時、思うようにできない時、集団に入った時、大きい音を聞いた時などパニックを起こし抜け出すことがある。抜け出す回数や行先を言うことなど、約束ごとを決めて取り組んでいる。</li> </ul>

### (3) 指導にあたって

指導にあたっては、児童の日常の生活からかけ離れることなく、季節を自然に感じるように全体計画を組みたい。また、フェスティバルで企画するものについて、子供たちの興味関心から引き出されるものを中心におき、意欲を持続させたい。

## 4 単元の指導計画及び評価規準 全14時間

次	時間	題材名	主な学習活動	支援の手立て	評価規準
1	2	秋を見つけよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学区探検をし、秋を感じるものを探したり、拾ったりし、「秋のたからばこ」に入れる。</li> <li>・見つけた秋を秋ビンゴカードに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A児は植物、B児は虫が好きなので、それぞれ採集できる準備をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋らしいものを採集したり見つけたりする事ができたか。</li> </ul>
2	2	ポップコーンを収穫しよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育てたポップコーンを収穫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掛け声をかけ2人でとれるように楽しい雰囲気にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポップコーンを協力して収穫できたか。</li> </ul>

3	4	見つけた秋を使っておもちゃを作ろう	・秋の宝物を使っておもちゃを作る。	・おもちゃのサンプルを提示し、興味があるものを選ばせる。	・秋のおもちゃを作るために進んで活動することができたか。
4	1	野の花フェスティバルの計画を立てよう	・作ったおもちゃを使って、みんなであそぶ計画を立てる。	・友達を招待する気持ちをもたせるために、遊ぶことに十分浸らせ、招待したいという気持ちを価値づける。	・野の花フェスティバルを開く計画に同意し、内容を発表することができたか。
	3	野の花フェスティバルの準備をしよう	・おしらせポスターをつくる。 ・野の花フェスティバルの看板づくりをする。【本時】 ・みんなに遊んでもらえるよう説明の練習をする。	・児童のおもちゃを写真にして、宣伝したいことを話させる。 ・看板のミニチュア板を作り、見通しをもたせる。 ・活動を選べるようにする。	・活動に意欲をもって取り組もうとすることができたか。
5	2	野の花フェスティバルをしよう	・全校のお友達を招待して野の花フェスティバルをする。	・遊び方の紹介ができるように、教師が聞き役となり練習させる。	・自分のおもちゃをお友達に紹介することができたか。

## 5 本時について

### (1) 本時の目標

- ・活動に意欲をもって取り組もうとする。

### (2) 本時にかかわる児童の実態と目標、支援の手立てと評価について

児童	題材における児童の実態	本時の目標	支援の内容・工夫	評価
一年生R	<ul style="list-style-type: none"> <li>・のりを使って貼ること、シールを貼ることは楽しんでできる。</li> <li>・友達と比較して、できないことがあると、途中で活動を投げ出してしまふ。</li> <li>・思いや意図をもち、作業に生かそうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と一緒に活動することができる。</li> <li>・貼り絵やスタンプ、シールに興味をもち進んで看板を作ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いやこだわりをもたせた素材に着目させる。</li> <li>・活動のルールを守ることができるよう視点を与える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に意欲をもって取り組もうとしたか。</li> </ul>

<p>二年生 A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・のりやシール貼りは好んで行うことができる。</li> <li>・教室に面識のない人が入ってくるとパニックになり抜け出す。</li> <li>・教室にいるという約束は守ることができても、大きな声で泣いてパニックを起こす。</li> <li>・作業は嫌がらず行すが、雑になりがちである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人がいても自分で場所を選んだり、抜け出す回数を守ろうとしたりしながら、活動することができる。</li> <li>・貼り絵やスタンプ、シールに興味をもち、看板を作ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の見通しを確実に伝える。</li> <li>・活動のルールを守ることができるよう視点を与える。</li> <li>・活動場所をベランダと教室に確保し、狭所感を与えないようにする。</li> <li>・パニックになったことを想定し、支援員と支援の方向性を決めておく。(言葉かけ、場所、タイミング、抜け出す回数)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に意欲をもって取り組もうとしたか。</li> </ul>
------------------	--	---	---	--

### (3) 本時の構想

野の花フェスティバルの看板を作るために、「貼る」作業とスタンプを押す作業の2つの方法を中心に看板を作る。「貼る」作業としては、白抜きの文字に色紙で貼り絵をする、マスキングテープを貼る、ぶどうの台紙にシールを貼るものとする。「スタンプを押す」作業としては、同じように白抜きのものにスタンプを押すものとする。自分の選んだ方法に取り組みさせることにより、興味を持続させたい。そして、自分たちのお祭りをつくるという気持ちをもたせたい。

本時のはじめには、活動のルールと内容を児童と確認してから始める。

活動の内容としては、色紙、シール、テープ、スタンプという4つの活動を準備し、児童が選択できるようにし、選択させることで活動のモチベーションを高めたい。活動時には、BGMを流し、聴覚的にもリラックスできる雰囲気をつくりたい。A児は、活動の場所が固定化してしまうと気持ちが乱れてしまうので、教室内とベランダの2か所を設定し、空間に余裕をもって活動させたい。

同じ作業に集中できない実態から、10分できたらごほうびタイム3分とし、そのサイクルを1時間で2回とする。一つの作業ができれば、「きらきらの玉」の中にビー玉を一つ入れ、評価とする。

時間いっぱい、活動に没頭できるように楽しさとゆとりをもって活動を支援したい。

### (4) 研究とのかかわり

- 児童が興味・関心をもち、主体的に学ぼうとするために、作業内容の提示の仕方をわかりやすくする。  
本時では、完成全体図のミニチュア版を作っておき見通しをもたせるさらに、三つの作業から、自分のやってみいたい内容のものを選ぶ。 (自己決定)
- 自分の選んだ方法を振り返り、児童自身が意欲的に活動し評価できるようにする。 (自己存在感)
- 児童の学習へのかかわり方を常に観察し、価値づけをして返すようにする。 (共感的人間関係)

(5)展開

段階	学習活動	指導上の留意点
つかむ 5分	1 始めのあいさつをする。 2 学習課題を把握する。 <b>かんばんをつくらう。</b>	指導上の留意点 ・留意点 ※評価 ●3機能から ・姿勢と口の動きに気をつけてさせる。 (視覚化) ・前時までに作ったお知らせポスターを見せ、活動を思い出させる。 (作ったポスターの具体物) ・めあてカードを提示し、本時の目標を確認する。
見通す 5分	3 学習の見通しを伝える。 ・看板には、4つの方法で模様をつけることを伝え、どちらでやりたいか選ばせる。 ① 色紙 ② シール ③テープ ④ スタンプ	・説明をきちんと聞くことができる。 ・やってみたい方法を選ぶことができる。 ●4つの方法から、まず自分のやってみたい方法を選ぶ。 〈自己決定〉【展開①】
活動する 25分	4 看板づくりをする。 ・活動は10分ずつ行う。 ・一つの活動が終わったら、ご褒美タイムを3分とる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p><b>【色紙・シール・テープ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白抜きの模造紙（画用紙）に貼り絵をしながら文字や絵を完成させる。</li> <li>・色紙は、大きめに切っておき、貼る作業を中心にさせる。</li> <li>・色、素材別に箱に入れておき、児童が選んで貼ることができるようにする。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p><b>【スタンプ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・型を用意し、その中に丸いスタンプを重ねさせる。</li> <li>・ぶどうの絵にスタンプを使いながら彩色していく。</li> <li>・ぶどうの写真を準備し、色を考えさせながら色を作っていく。</li> </ul> </div> </div>	・どちらもモデルを準備して見通しをもちやすいようにしておく。 ・途中で完成の目途が立ったら、自分の選んでいないほうでやってみてもよいこととする。 ・作業の手順や指示をタイマーやボードなどを用い明確にする。 ・好きなキャラクターや興味があるものを素材として作成する。 ・活動はユニット制で行い、短い時間でも与えられた課題にしっかり取り組むことができる支援と評価をする。 ●自分の選んだ方法で活動することができたら「きらきらの玉」を渡し、ご褒美タイムをとる。 〈自己存在感〉 【展開②】

<p>ま と め る</p> <p>10 分</p>	<p>5 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 完成した看板を紹介し、互いの作業を認め合う。</li> <li>・ 自己評価をする。</li> <li>・ 片づけをし、終わりのあいさつをする。</li> </ul> <p>6 次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ めあてカードで振り返る。</li> <li>・ がんばったことをおおいにほめ、フェスティバルへの意欲を持続させるとともに、次時への意欲をもたせる。</li> <li>● 励ましや賞賛を与えながら、片づける場所などをきちんと確認させ、取り組ませる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">〈共感的人間関係〉【展開③】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 姿勢と口の動きに気をつけてさせる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(視覚化)</p>
--	---	---

(6) 評価

- ・ 活動に意欲をもって取り組もうとすることができたか。